

※意見交換の内容は要約しています。
（太字は参加者の意見、細字は市長の応答です。）

【意見項目】

- 1 循誘小学校の進入路について
- 2 体育館の冷房設備について
- 3 田代公園の進入口について
- 4 デジタル化について
- 5 水路の水流について
- 6 道路の整備について
- 7 学校の護岸、河川の監視、生態系について
- 8 西九州新幹線について

【意見交換内容】

1 循誘小学校の進入路について

循誘小学校が避難場所になっております。学校に入るには、南側からの通路 1 本だけです。今後、西側からも進入できるような道路を設置いただきたいです。避難のための通路、道路の整備をお願いします。

（市長）

循誘小学校の普段のご利用は、南側の正門ですが、災害時などには、東側の通路が車両の出入口として利用できるようになっているようです。南側の正門に続く道路は、道幅自体は 6 メートルで、消防車両の通行もできると佐賀消防署に聞いていますが、ご意見等を含めて、確認していきたいと思えます。

災害や有事の際に、大型バスや大型車が学校の敷地内に入ることができるよう、校区民の皆さんの生命・財産を守るという意味でも、ぜひお願いします。学校の西側は私有地で、住宅もありますが、西側の大財線から、大型バスも進入できる広さにしていただきたいです。

大雨のときには保護者が学校に迎えに来るということもございます。進入路が 2 本あると、迅速・安全に、子どもたちを保護者に引き渡すことができますので、ぜひよろしくお願いします。

（市長）

詳しく補足いただきまして、ありがとうございます。道路事業の評価制度も踏まえながら、道路の状況など確認させていただきながら、検討していきたいと思っています。

2 体育館の冷房設備について

循誘小学校の体育館に冷房が付いていません。屋外は 35 度、36 度になって、体温より高くなってきています。子どもたちに外でスポーツをさせたくても熱中症のことを考えると、危険です。

そのため、体育館を使用する機会がどんどん増えてくると思います。体育館にクーラーを設置していただきたいです。

(市長)

近年、暑さが酷くなっていく中、体育館の冷房は、非常に悩ましい問題です。ご指摘は、よく分かりますので、いろんな観点から考えていきたいと思えます。

また、猛暑日が続くと、体調に深刻な影響を与えるということで、今年度から、市内のいろんなところをクーリングシェルターとして指定しました。また、「涼み処」ということで、皆さんが立ち寄りやすい場所で、冷房が効いた場所を開放しています。今後、そのような場所を増やしていきたいと思っております。

3 田代公園の進入口について

大雨の時、田代公園の辺りは新しい道路でさえ 60 センチほど浸かりました。

雨が降った時は、田代公園に車を 60 台入れることができます。ここ 5 年ぐらいで 2 回ほど使用しました。東側の入り口からは鍵を外して開放できますが、西側の入り口には車止めの石があって入れません。西側と東側の両方から入れるようになったら、そこで渋滞しないと思えます。西側も開放できるようにしていただきたいです。

(市長)

田代公園の周辺が 60 センチ浸かったということで、佐賀江川周辺の浸水対策、また浸水の時間をどうやって短縮していけるか、避難誘導をいかに迅速に行っていくかが課題だと思っております。

そういう意味では、先ほど連携操作の説明でお話した佐賀江川の水門をうまく活用していくということ、それから、上流の状況も含めて、一体的に考えていくことは非常に大事だと思っております。

また、田代公園の進入口の件は、担当部署と工夫できる点を考えていければと思っております。

4 デジタル化について

スーパーアプリのようなデジタルツールは、どうしても使いにくいという意見がございます。関連して、サカエーる P a y がデジタルだけになりました。デジタル化されることで高齢者が置き去りになっているというニュースを新聞やテレビでも目にします。今後、ペーパーを無くしてしまうなどのお考えがあるのでしょうか。

(市長)

デジタル化は、やはり多くの皆さんに、使っていただけるような形が理想だと思っております。

いま、デジタルとアナログを両方取り入れているケースが非常に多いです。例えば、教育現場で、昔は黒板に先生が書いたことを、ノートに写して、記憶していましたが、今は黒板を使うし、電子モニターも使うし、紙を配布して、デジタルドリルもあって、みたいに複雑になっています。

そういう中で、どういう在り方が理想なのかを常に考えながら、そして、ご意見をいただいたように、誰かが犠牲になったり、置き去りになったりすることがないように、「最適解」を考えていかなければいけないと思っております。

サカエーる P a y は、紙とデジタルの両方を使って実施していましたが、かなりの経費がかかっていました。キャッシュレス決済が 1,200 店舗に広がっているということでもありましたので、私も悩みな

がらではありますが、今回、デジタル1本にしたところではあります。

一方で、ご意見にあったように、操作に慣れない方が、取り残されるということがないように、対面で相談できるようにしたり、公民館でスマートフォン講座をしたり、デジタルが誰かをとり残すということがないように形で、今後模索していきたいと思っています。

コロナのときは、デジタルかアナログかみたいなことが二項対立で語られる形でしたが、今後は、「デジタルか、リアルか」ではなくて、「デジタルがリアルの社会の中に組み込まれている」ような社会になると思います。例えば、自動運転の車が、人が呼ぶと来て、それに乗れるというような社会です。そういった社会になる中で、どうやって最適な形で移行していくかを考える必要があると思っています。例えば、先ほど説明した「見守りの仕組み」はデジタルですが、「見守りスポット」というのは物理的にそこにあります。

デジタルとリアルが、共存する社会がこれから来ます。

今、リモコン操作でテレビをつけるとか、あるいは銀行に行ってATMでボタンを押したら、お金が下せるとか、簡単にできますよね。そういった形で、デジタル操作を簡単にしていきたいと思っています。

今は移行期なので、使い勝手が複雑だということは、私も十分に問題意識として持っています。テレビのリモコンのように、このボタンを押せば車が来ますというものであれば、そのボタンを押すところまで教えて、体験してもらおうとか、市民証チェックインも、このボタンを押したらQRコードが出てくるので、後は、ピッてやるところをやってくださいねという体験会をやれば、皆さん、できるかもしれない。

でも、さらに、そこにIDを入れてパスワードを入れて何を設定して・・・となると、取り残される方が出てきます。

そうしたことがないように、スマートフォンをお持ちでない方にも寄り添った形というのを開発者にも相談しながら進め、常に模索をしているような状況です。ご指摘は分かりますので、そのあたりをよく意識して、開発の方ともやりとりをしたいと思っています。

5 水路の水流について

要望は、河川の水を多く流してもらいたいということです。河川に水流がない。この辺りから、佐賀江川に至る田代方面までの水路も、もう水が流れておりません。例えば、干潮の時間帯にでも、水を流してもらえば、草が生えなくなるので、河川清掃の時に本当に助かると思っています。

(市長)

昭和56年から地域の皆さんによる河川清掃の活動が始まりました。今では、なかなか若い方が参加をされていないということは、私も課題意識として持っているので、どうやって持続可能な取り組みにしていくのか非常に大事だと思っています。

市街地の水路の多くが、多布施川から水を取り入れています。こうした嘉瀬川水系の用水に関する話は、国・県・市で連携会議を設けておりまして、そこで環境用水を確保するための柔軟な運用ができないかという話をしているところです。

農業用水は、川上頭首工から多布施川を通じて東与賀方面に流している状況で、今の時期は、多布施川の水遊び場もあるということで、少し流す量を制限しているような状況もございます。

それから、大雨が予測される場合は、水量を減らし、水位を下げることもしているので、いずれにしても、隅々まで水が行き渡っていないんじゃないかというお話だと思います。そうしたところが少しでも良くなるように、水路の除草や浚渫等をやっていきたいと思っておりますし、ご指摘の点はいろんな関係機関とも、話し合いを続けていきたいと思っています。

6 道路の整備について

チャリチャリ佐賀の話、大変すばらしいと思いますが、自転車を利用して、通るときに、危ないなと思う箇所があるんですね。例えば、循誘公民館から戸上電機(ドラモリ)方面へ向かう道は非常にデコボコが多くて通りにくいし、歩道もそういう状況です。車道と歩道の間がすごく狭くて、しかも、側溝の蓋の上を行かなきゃいけないような感じなので、雨の日はとても危険です。自転車で安全に通れるような道を作っていただきたいと思っています。

(市長)

レンタサイクルといえば、今までは、どちらかという、貸出しスポットを設けて自転車を貸し出して、半日とか1日かけて乗ってもらう、サイクルツーリズムのような形だったと思います。

最近では、利便性を高めていくには、「どこでも乗れて、どこでも降りられる」ことが重要で、公共交通機関に近いような利便性で使えるように、借りる場所・返せる場所であるポートの密度を増やしていこうとしています。チャリチャリは、ポートを最初9か所で始めて、現在24か所と拡大しています。こうした取組を進める中で、自転車が通りやすいところもあれば、自転車が通ったら危ないような所もあると思います。

モデル的に活用しやすいところとか、あるいは、利用が多いにもかかわらず、少し悪い状況だとか、そうしたところをしっかりと分析しながら、今後どうすることができるか考えていきたいと思っています。

7 学校の護岸、河川の監視、生態系について

学校の南側の護岸を見ると、楠の根の影響で護岸が動いています。早めに対応しないと、余計にお金がかかるんじゃないかなと思っています。

河川への対応で言うと、人が減ると、河川の監視ができなくなってくると思います。だから、総合的な制御ができるような方策も検討していく必要があると思います。

それと、河川でミドリガメが非常に増えております。以前、佐賀市はキャッチフレーズに、「トンボの飛び交う街づくり」をうたっていましたが、どういうアクションを起こしたのか、疑問を持っています。ガマガエルもいなくなって、生態を大きく変えています。地域ともう少し話し合いをしてほしいです。

(市長)

学校の南側の護岸のお話を頂きましたので、状況を確認させていただきたいと思っています。

それから、人が少なくなっていく中での総括管理、総括制御をというご指摘でした。

お話のとおり、今、樋門の操作とか、いろんな操作を各地域でやっていただいておりますが、そうした皆さんも高齢化し、次の担い手が引き継いでいけるのか等の問題が出てくると思います。

今後、遠隔操作やゲートの自動化など、順次、考えていく必要がある時代だと思っています。そのようなことも含めて、国などとも話をしていきたいと思っています。

それから、生態系が変わってきたという話で、最近では、特定外来種が繁茂していたり、狂暴なカラスが増えてカチガラスが減ったりとか、おっしゃったようにミドリガメ、トンボの話もあります。

そうした生態系の変化も分析しながら、中長期的な対応を、しっかり考えていく必要がある時代だと思っておりますので、そういった点も意識していきたいと思っております。

8 西九州新幹線について

西九州新幹線のことで、7月24日に東京での会合（与党検討委員会のヒアリング）に市長が出席されるということで、私は、あまり佐賀市にはメリットがないと思っておりますが、どのようなスタンスで臨まれるのか、佐賀市としてのスタンスをお聞かせください。

（市長）

新幹線の件は、これまでスーパー特急という在来線を活用したやり方ですとか、フリーゲージトレインという、ゲージ幅を可変できる方式で、武雄まではうまく佐賀の在来線を生かしたままで整備を検討してきたという経緯がございます。

そうした在来線を活用した整備を進めてきたのはなぜかということ、やはり、佐賀市の佐賀駅をご利用いただいている方からすると、特急の本数が多く、在来線の利便性も高いからです。そうした高い利便性を生かしながら、全体最適ということで取り組み、合意をしてきたところです。

そうした中で、フリーゲージトレインでは、どうしても磨耗が激しいなど技術的に難しい問題があるということで、国から相談が来ている状況です。

フル規格については、在来線に与える影響や、特急の本数が減るとか、無くなるんじゃないかとか、料金も高くなるんじゃないかとか、いろんな問題があると思っております。

また、県に巨額の負担が来るということですので、そうした財政負担の問題もあります。どれも重要な課題なので、しっかりと国でも考えていただく必要があると思っております。

今、いろんなルートの方が示されていますが、ルートだけでなく、在来線への影響や、財政負担、あるいは地域の振興、佐賀の発展にどうつながるのか、そうしたことも含めて、国の方でも考えていただかないといけません。

「他の路線ではこうやっています」ということだけを言われましても、今まで在来線を生かして整備を進めるという内容で合意をしてきたので、そうした経緯を踏まえた対応が必要ではないかと感じているところです。

今後、県も会議に出席されるということですので、そうしたところも含めて、議論がなされるものと思っています。